

# 南海トラフ巨大地震による震度分布図



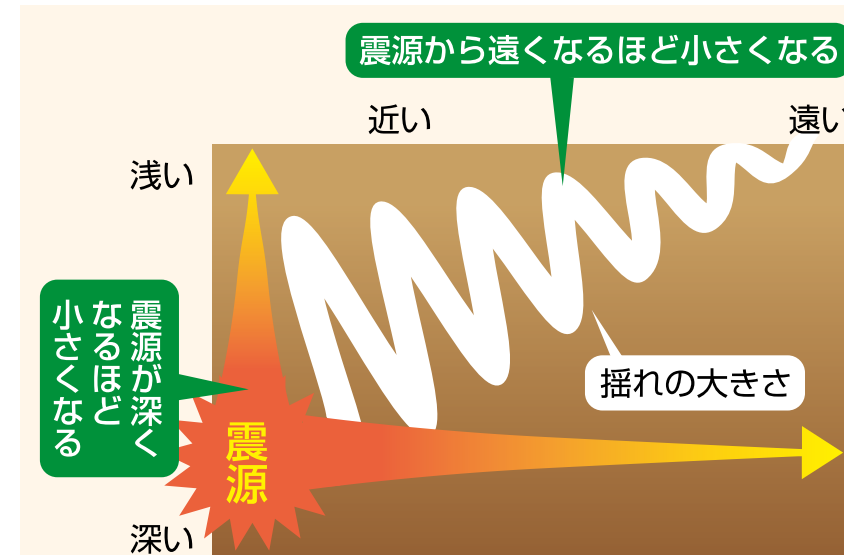
※この震度分布図は、岡山県が平成25年2月に公表した「南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.0）」が発生した場合の震度を示したものです。

凡例		地震動	
	高速道路		震度6強
	主要幹線道路		震度6弱
	鉄道		震度5強
	私鉄		

## 解説

南海トラフ巨大地震が発生した場合、地震の揺れの強さを表す震度は、市全域で震度5強以上となり、最大では、震度6強となる地域もあることが想定されています。

このように、揺れの強さは、同じ地震が発生した場合でも震源域からの距離や、地盤の状況などによって異なります。特に軟弱な地盤上では、より強い揺れが発生することが一般的に知られています。



震源からの距離と震度（揺れぐあい）の関係

<b>震度 1~2</b> つり下げた物がわずかに揺れる。 	<b>震度 5強</b> 固定されていない家具が倒れる。 
<b>震度 3</b> 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 	<b>震度 6弱</b> 耐震性の低い建物には倒壊や損壊するものがでてくる。 
<b>震度 4</b> 食器などは音をたて、置物が倒れる。 	<b>震度 6強</b> 耐震性の低い建物では倒壊するものが多い。 
<b>震度 5弱</b> 電灯が激しく揺れる。食器類が落ちる。 	<b>震度 7</b> 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが増える。 